

平成26年10月24日

広島大学平和科学研究センター／新潟県立大学共催国際シンポジウム
「混沌とする世界における国際機関の強化
－ヒロシマの果たす役割は－」開催について

[研究機能]

広島大学平和科学研究センターは、新潟県立大学との共催で国際シンポジウム「混沌とする世界における国際機関の強化－ヒロシマの果たす役割は－」を下記のとおり開催します。

本シンポジウムでは、元国際連合事務次長 ^{あかしやすし}明石康氏の基調講演のほか、軍縮会議日本政府代表部前大使の ^{あまのまり}天野万利氏、元UNDP駐日代表・総裁特別顧問の ^{ゆげあきこ}弓削昭子氏などをお招きし、戦後国際関係とりわけ平和と繁栄に果たした国際機関の役割と、混沌とする今日の世界における国際機関の強化について議論し、そしてヒロシマは何ができるのか考えます。

記

【日時】2014年11月21日（金） 9：30～17：40
（開場9：00）

【場所】広島国際会議場 地下2階ダリアの間
（広島市中区中島町1番5号 平和記念公園内）

【テーマ】混沌とする世界における国際機関の強化
－ヒロシマの果たす役割は－

【スケジュール】

■9：30～9：45 開会

■9：45～11：10 第Ⅰ部 戦後国際関係に果たした国際機関の役割
＜パネリスト＞

- ・G. John Ikenberry（プリンストン大学教授）
- ・天野万利（アジア生産性機構事務局長、軍縮会議日本政府代表部前大使）
- ・猪口孝（新潟県立大学学長）

■11：25～12：50 第Ⅱ部 混沌とする世界における国際機関の強化
＜パネリスト＞

- ・David Held（ダラム大学教授）
- ・弓削昭子（法政大学教授、元UNDP駐日代表・総裁特別顧問）
- ・西田恒夫（広島大学平和科学研究センター長、前国際連合日本政府代表部特命全権大使）

- 14:30～15:10 基調講演
明石康（特定非営利活動法人日本紛争予防センター顧問、元国際連合事務次長）
- 15:20～17:10 第三部 ヒロシマは何ができるのか？
<パネリスト>
 - ・ Brian Finlay（ヘンリースティムソンセンター上席研究員）
 - ・ 水本和実（広島市立大学広島平和研究所副所長・教授）
 - ・ 山本武彦（早稲田大学名誉教授）
 - ・ 川野徳幸（広島大学平和科学研究センター教授）
- 17:10～17:20 閉会の言葉

【言語】英語／日本語（同時通訳付）

【対象】どなたでもご参加いただけます。（入場無料）

【申込方法】FAXまたはメール（件名を「シンポ申込み：氏名」とする）にてご氏名・ご所属・電話番号またはメールアドレスを以下の問合せ先までお知らせ下さい。
なお、ご希望多数の場合は、先着120名に限らせていただきます。

【お問い合わせ先】

広島大学平和科学研究センター（東千田キャンパス） 担当：友次、小倉、下手 TEL：082-542-6978又は7098又は6975 FAX：082-245-0585 E-mail：heiwa@hiroshima-u.ac.jp URL：http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/

混沌とする世界における国際機関の強化

—ヒロシマの果たす役割は—



入場無料
先着120名

二十一世紀の国際社会は、核兵器をはじめとした大量破壊兵器の拡散、テロリズムの横行、紛争と難民の増大、気候変動・自然災害の甚大化、逼迫する資源エネルギー等々、多種多様な問題に直面しています。グローバル化した世界にあって、これらの諸問題は相互に深く関わりあっており、たとえ地理的に遠く離れた場所で発生したものであっても、私たち自身の生活に影響が及ぶ可能性が増大しています。しかも、これら越境的な課題は、もはや一国だけで対処出来るものでは到底なくなっており、国際機関に求められる役割も益々大きくなってきています。

そこで本シンポジウムでは、戦後国際関係とりわけ平和と繁栄に果した国際機関の役割と、混沌とする今日の世界における国際機関の強化について議論し、そしてヒロシマは何ができるのか考えます。

【日 時】 2014年11月21日（金）

9:30-17:40（開場9:00）

【場 所】 広島国際会議場

地下2階ダリアの間

（広島市中区中島町1番5号 平和記念公園内）

【言 語】 英語 / 日本語（同時通訳付）



*参加ご希望の方は、下記内容をFAX（送信表不要）、またはメール（件名を「シンポ申込み：氏名」とする）にて事前にお申し込み下さい。定員を超えました場合、お断りさせて頂くことがあります。また、席に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。（JFAX用）

ご氏名	参加ご希望の部に○を付けてください。
ご所属	全て・基調講演
電話番号 またはE-mail	I部・II部・III部

<申し込み先>
 広島大学平和科学研究センター
 〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89
 TEL : 082-542-6975 / FAX : 082-245-0585
 E-mail : heiwa@hiroshima-u.ac.jp
 URL : http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/

混沌とする世界における国際機関の強化—ヒロシマの果たす役割は—

9:30～9:45 開会

9:45～11:10 第1部 戦後国際関係に果たした国際機関の役割



G. John Ikenberry (プリンストン大学教授)

プリンストン大学および同大ウッドロー・ウィルソン公共政策大学院のアルバート・G・ミルバーク記念教授。1985年シカゴ大学より博士号取得。ペンシルベニア大学准教授(1993～2000年)、ジョージタウン大学教授(2000～04年)等を経て現職。著書『アフター・ヴィクトリー：戦後構築の論理と行動』(2001年)で、国際関係史、国際政治学の最良の図書に贈られるとされる、アメリカ政治学会シュローダー・ジャーヴィス賞を受賞(2002年)。2011年には『リベラルなパイアサン—アメリカの起源・危機・変容』を刊行(日本では『リベラルな秩序か帝国か—アメリカと世界政治の行方(上)(下)』として翻訳刊行)。他にも『一極性の諸帰結と国際関係論』(共著、2011年)、『日米安全保障同盟：地域的多国間主義』(共著、2013年)など著書多数。



天野万利 (アジア生産性機構事務局長、軍縮会議日本政府代表部 前大使)

1973年に東京大学卒業後、外務省入省。1974～76年にオックスフォード大学 ハートフォード、Special Diploma in Social Studies 取得。その後、在連合王国大使館、経済協力局、北米局、在クエイト日本大使館、OECD 日本政府代表部、官房報道組織、在タイ大使館、在米大使館、総合外交政策局などでの勤務を経て、2001～04年にヒューストン日本総領事、2004～07年朝鮮半島エネルギー開発機関(KEDO) 事務次長、2007～11年経済協力開発機構事務次長(OECD) 2011～13年特命全權大使 軍縮会議日本政府代表。2013年9月よりアジア生産性機構(APO) 事務局長。



窪口孝 (新潟県立大学学長)

現在新潟県立大学学長、東京大学名誉教授。東京大学卒業後、マサチューセッツ工科大学にて政治学博士号取得。東京大学東洋文化研究所教授、国連大学上級副学長、日本国際政治学会理事長、日米教育委員会委員などを経て現職。アジア全域の「生活の質」世論調査指導者。専攻は政治学、国際関係論。著書100冊以上。最近では『現代市民の国家観』(東京大学出版会、2010年)、『実証政治学構築への道』(ミネルヴァ書房、2011年)、『ガバナンス』(東京大学出版会、2012年)、『日米中のトライアングル』(バルグレーブ・マクミラン、2013年)、『データでみるアジアの幸福度』(岩波書店、2014年)。

11:25～12:50 第2部 混沌とする世界における国際機関の強化



David Held (ダラム大学教授)

ダラム大学教授およびダラム大学国際政治研究所長。マサチューセッツ工科大学大学院にて博士号(政治学)取得。専攻は、政治理論、民主主義論、グローバル化研究。フランクフルト学派の研究から出発し、グローバル化する世界での民主主義の在り方に関心を寄せ、コスモポリタン・デモクラシーという理念を提唱している。1984年に出版社 ポリシー・プレスを創設し、現在編集長を務める。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス教授を経て、2012年から現職。主な著書に、『なぜグローバルな協力は失敗するか』(共著、2013年)、『コスモポリタニズム』(2010年、2011年に翻訳本刊行)など。



弓削昭子 (法政大学教授、元UNDP駐日代表・総裁特別顧問)

米国コロンビア大学卒。ニューヨーク大学大学院で開発経済学修士号取得。国連開発計画(UNDP)タイ事務所、ニューヨークUNDP本部を経て、(社)海外コンサルティング企業協会にて勤務後、フリーの開発コンサルタントとして活動。1988年にUNDP復職、タイ事務所常駐代表補佐を経て、1990年UNDPインドネシア事務所常駐代表、1994～98年UNDP プーターン事務所常駐代表。1999年からフェリス学院大学教授として3年間勤務。2002年よりUNDP駐日代表を務め、2006年に国連事務次長補・UNDP管理局長就任。財務、総務、人事、法務、安全管理等を統括する管理部門の総責任者として、世界各地でのUNDPによる開発協力活動の透明性・効率性向上に尽力。2012～13年、UNDP駐日代表・総裁特別顧問。2014年4月より法政大学法学部国際政治学科教授。



西田恒夫 (広島大学平和科学センター長、前国際連合日本政府代表部 特命全權大使)

1970年に東京大学卒業後、外務省入省。1981年より在ソビエト連邦日本大使館、欧亜局東、条約局、在アメリカ合衆国日本大使館、内閣審議官などをを経て、内閣官房内部安全保障・危機管理室、大臣官房審議官兼条約局長、経済協力局長、大臣官房、総合外交政策局長を歴任し、1999～2001年に在ロサンゼルス総領事、2005～07年に外務審議官、2007～10年にカナダ駐留特命全權大使兼国際民間航空機関日本政府代表部、2010～13年に国連大使(特命全權大使、国際連合日本政府常駐代表)を務めた。2014年より広島大学平和科学センター長(同特任教授)。

14:30～15:10 基調講演



明石康 (特定非営利活動法人日本紛争予防センター顧問、元国際連合事務次長)

1954年東京大学卒業。バージニア大学大学院、フレッチャー・スクール大学院に留学後、1957年日本人の国連職員第1号となり、政務担当官として配属。のち事務総長官房勤務。1970年代には日本政府国連代表部で参事官、公使、大使を務める。その後18年間、国連事務次長として広報担当、軍縮担当、カンボジア暫定統治機構(UNTAC)と旧ユーゴスラビアPKO担当事務総長特別代表、人道問題を担当。1997年12月国連退官。1999年2月まで広島平和研究所初代所長。現在は公益財団法人国際文化会館理事長、スリランカ平和構築及び復旧・復興担当日本政府代表、公益財団法人ジョイセフ会長、神戸大学特別教授、群馬県明石塾塾長等。主な著書に『国際連合—軌跡と展望』(岩波新書)、『戦争と平和の谷間で—国境を超えた群像』(岩波書店)など。

15:20～17:10 第3部 ヒロシマは何ができるのか?



Brian Finlay (ヘンリステイムソンセンター上席研究員)

カールトン大学大学院修士課程修了(国際関係学)。カナダ中央災害保険研究所プロジェクトマネージャー、センチュリー財団プログラムオフィサー、ブルックリン研究所取締役などを歴任し、現職に至る。国際・地域レベルの政策イノベーション、公的だけでなく私的な脅威に対するセキュリティの向上などに力を入れており、世界中のメディアにグローバルな視点からの鋭い解析・コメントを提供し、多くの本や論文を科学雑誌に執筆している。その他、iMMAP(人権保護と発展のための情報提供を行うためのNGO)の役員やBlack Market Watchの顧問など多くの組織の役員も務めている。



水本和実 (広島市立大学広島平和研究所所長・教授)

1957年広島市生まれ。1981年に東京大学卒業後、朝日新聞記者(社会部、外報部、ロサンゼルス支局長など)として勤務。1987年米田アツツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程修了(法律外交修士・M.A.L.D)し、1998年より広島市立大学広島平和研究所准教授、2010年より現職。専門は国際関係(核軍縮)。著書に『核は廃絶できるか—核拡散10年の動向と論議』(法律文化社、2009年)、共著に『核軍縮不拡散の法と政治』(河津社、2008年)、『21世紀の核軍縮—広島からの発信』(法律文化社、2002年)、『なぜ核はなくなるのか—核兵器と国際関係』(法律文化社、2000年)など。



山本武彦 (早稲田大学名誉教授)

1943年大阪府生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了。国立国会図書館員、静岡県立大学国際関係学部教授を経て、1991～2014年まで早稲田大学政治経済学術院教授。2014年4月から現職。この間に、米田ジョージア大学(1999～2000年)とストックホルム経済大学(2003年)で客員教授を務め、オックスフォード大学客員研究員(2005年)、ハーヴァード大学ケネディ・スクール研究員(2008～09年)を務めた。主な著書に、『経済制裁』(日本経済新聞社、1982年) 国際公共政策叢書第18巻『安全保障政策—経世済民・新地政学・安全保障共同体』(日本経済評論社、2009年)など。



川野徳幸 (広島大学平和科学センター教授)

1966年生まれ。広島大学大学院歯歯学総合研究科修士課程修了(医学博士)。広島大学原爆放射線医学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学センター准教授等を経て、2013年6月から広島大学平和科学センター教授。専門は原爆・被ばく研究、平和学。広島・長崎原爆被害、セミパラチンスク・チェルノブイリの核被害について社会医学的視点から調査研究を行っている。著書に、『カザフスタン共和国セミパラチンスクにおける核被害解明の試み—アンケート調査を通して』(2006年)、『広島から世界の平和について考える』(分担執筆、2006年)など。

17:20～17:40 閉会の言葉

司会



友次晋介 (広島大学平和科学センター准教授)

2010年名古屋大学大学院修了、博士(法学)。2008年ジョージタウン大学客員研究員、2011～14年名古屋短期大学英語コミュニケーション学科助教を経て、2014年4月より現職。著書に『対テロ国際協力の構図—多国間連携の成果と課題』(共著)、『アメリカを止めるための18章—超大国を読み解く』(共著)など。



小倉亜紗美 (広島大学平和科学センター助教)

2009年広島大学大学院生物圏科学研究科修士課程修了、博士(学術)。2009～10年広島大学総合博物館客員研究員、2010～14年広島大学国際センター研究員を経て、2014年4月より現職。専門は、環境平和学、環境保全。著書に『黒潮川流域ガイドブック』(2005年)など。